

原発問題を考えよう！

危険なプルサーマルは即刻やめるべき！！その3

被爆国日本は、原爆の材料であるプルトニウムを溜め込むことで国際的な非難の的にならないように「余剰のプルトニウムを持たない」と国際公約をしており、余剰のプルトニウムを燃やすプルサーマルは、国の原子力政策としての核燃料サイクルの一環として進められています。

本来、核燃料サイクルの一環である高速増殖炉「もんじゅ」によって、使用済み核燃料を再処理して抽出されるプルトニウムを燃やす計画をしていたのですが、1995年にナトリウム漏れ火災事故が発生するなど不具合が続き、運転の目処が立たず、プルトニウムを燃やすことが出来なくなっているのが現状です。

その一方で使用済み核燃料の再処理は続けられてプルトニウムは貯まり続けており、事実上核燃料サイクルが破綻しています。そのため苦肉の策として、既存の原発でプルトニウムを混ぜたMOX燃料を使うことで余剰のプルトニウムを燃やそうというのがプルサーマルを推進する理由となっています。

プルサーマルを行わないと原発が止まる？！



一方、電力会社が危険なプルサーマルを推進する理由には原発を運転し続けるためという事情もあるようです。

それは、原発から排出される使用済み核燃料などの放射性廃棄物の最終処分が具体的に決まっていない現在、これ以上プルトニウムを増やさないために使用済み核燃料の再処理を行わないとすると、各原発から使用済み核燃料が運び出せなくなり、各原発にある使用済み核燃料貯蔵プールが貯蔵限界に達してしまいます。そして使用済み核燃料貯蔵プールが一杯になると新しい燃料に交換できなくなって原発を運転することが出来なくなってしまうのです。つまり、プルトニウムを燃やして減らさないと再処理できず原発が止まるということです。

よく原発のことを『トイレのないマンション』と比喻されますが、原発から排出される放射性廃棄物の最終処分が決まっていないのにもかかわらず原発を運転し続けることは子々孫々へツケをまわすことになります。しかも原発を運転し続けるために使用済み核燃料を再処理する。再処理してプルトニウムが増えるから危険なプルサーマルを行う、まさに悪循環です。

未来にこれ以上のツケまわさないため、放射性廃棄物を出さないため、原爆の原料であるプルトニウムを増やさないために原発を直ちに止めるべきです。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！